

人形劇団ひとみ座60周年記念公演『テンペスト』は無事、盛況の内に終了いたしました。ご来場いただいた皆さま、どうもありがとうございました。デフパペメンバーも各々持ち味を発揮し、色々な場面で活躍。特に1年前に

大型新人としてデビューした牧野英玄は、冒頭をダイナミックなジャンプで幕を開ける大役を見事に果たしました。この劇団挙げての祝祭であるテンペスト公演が終わった後、緊張の解れからか劇団内で病欠者が続出しバタバタしていましたが、桜満開のうらかな春、ようやく平常を取り戻してまいりました。

そうです、改めて何かを考えたり、やってみたいと思うこの時期、デフパペでは『森と夜と世界の果てへの旅』の稽古直しが始まりました。初演からはかなり違った配役と構成になる見込みです。デフパペらしい表現を欠かさず、より楽しくパワフルな舞台を目指し演出のくすのき燕氏と共にメンバー一丸となって奮闘中です。

またもう一つ、こんな話も持ち上がりました。デフパペ流の手話教室を開こうというのです。どこがデフパペ流かという、もちろん人形を使うこと。手話が初めての人を対象に、まずは物や人形を使ってコミュニケーションしてみる。次に身振りや顔の表情で伝えてみる。また実際に手話を覚える場合にも、シチュエーションを設定して演じてみる。あるいはゲーム風にした、旅公演の後なら、旅先の様子などを話題にしてメンバーとの会話を楽しんでもらうなど。可能であれば違う分野で活躍している人の話を聞く。例えばサッカー選手の試合中のコミュニケーションではどんなことが行われているのか。また地震などの災害時、ろう者にはどんな困難があるのか、シミュレーションして危機管理の意識を高めてもらう。多岐に渡り雑多ですが、このような集いは、デフパペメンバー自身の企画力・表現力アップに繋がると共に、また皆さんにデフパペの活動とその面白さを体感していただく絶好の機会となるでしょう。目下実現目指して構想中です。乞うご期待下さい。また助言もお待ちしております。

デフパペメンバー一同

デフパペニュース 春号の目次

デフパペイズム

3ヶ月に一度のこんにちわ メンバーのコラム

今回の担当は、牧野英玄です。

日々、これ制作・・・ デフ制作メンバーのコラム

今回の担当は、大木翔吾です。

宇野小四郎当用辞典 現代人形劇センター顧問、宇野小四郎氏の随筆シリーズ

其の三「人形」前編

ごあいさつ 新島英明

お知らせ

公演スケジュール

デフ・パペットシアター・ひとみ

やなせけいこ	森元勝人
榎本トオル	新島英明
善岡修	大木翔吾
鈴木文	大里千尋
富安優子	
牧野英玄	
白井赫	



ろう者と聴者が共につくる

デフ・パペットシアター・ひとみ
DEAF PUPPET THEATER HITOMI

〒211-0035 神奈川県川崎市中原区井田3-10-31(公財)現代人形劇センター

TEL: 044-777-2228

FAX: 044-777-3570

e-mail: deaf@puppet.or.jp

URL: http://deaf.puppet.or.jp/



デフ・パペットシアター・ひとみ

其の三「人形(前編)」

日本人が好む西洋の骨董品という
と、マイセンの焼き物や、ビスクドール
などに人気がある。だがこの両者共日
本の影響で生まれたものだという。

ドイツのマイセンは18世紀初頭に
ヨーロッパで初めて陶磁器製造に成功
したが、それは日本の有田、柿右衛門
様式を基に生まれたという。ビスクドール
の方は更に新しく、19世紀後半パリ
万博に出品された市松人形に刺激を
受けジモーンによって開発製造され始
めたものである。

頭っからこんな話をしても別段日本の文化力
を誇ろうというわけではない(とか言ってもどや顔
が見え見え)。所詮日本など、世界的に見れば
中国、中華文化の周縁文化ではないか。日本は
いつの時代も中華の深く広い文化を身の丈に
合っただけ受け取って満足していれば良かった。
と言いたい所だが日本文化を見てくるとどう
もそれに甘んじない、独自というより勝手な振舞
いをしているように見えて、実はそこん所が「デ
ヘヘ」(急に下品な笑いでごめんなさい)一筋
縄では行かないと言う程図太くないが、要領が
いい、ちゃっかりしている、抜け目の無い、たち
の悪い所がある。これらは合理的な目的を果た
すためではなく、物事を曖昧にするための仕
様、道筋である。この結果日本には世界一緩い
文化が出来上がった。この辺が中国、インド、ア
ラブ、ヨーロッパなどの体系的文化と異なり、中
華文化の視点から見れば、無智にも野蛮にも無
礼にも見えたようだ。

(裏面に続く→)

(→表面の続き)

その実例。古代豪族連合に立った大王という
体制から、唐の律令制を導入して、天皇を頂点
とする官僚制を実施した。701年の大宝律令な
どである。こんなの常識、タッタ・タラリなんて
浮かれてはいけない。この律令中国とは大きく
変わっていたのである。半分勝手に付け加えた
部分があって、それは律令の最高位は太政官
であるが、日本ではそれと別に同格の神祇官と
いうものを置いた。最高権力者が二人居たの
だ。これは周知の事実なのにほとんど無視され
てきた。

神祇官とは何かというと神様を祀る最高責任
者である。彼は天皇を始めさまざまな神を祀っ
た。天皇は自身が神様だから神を祀る事はしな
い(例外は宮中と伊勢などの祖先神)。それ所か
全国の神の頂点に立って各神に位を受けた。
これは中国の皇帝の律令の権威に楯突いてい
る。「急急如律令」という言葉は中国の現代でも
通用しているが、意味は律令の通りささとや
れという事で、これを唱えればどんな願いも叶う
という強力な呪いである。中国皇帝の神聖を侵
した日本の律令はその崇りで破綻を見せる。令
を頒布して間もなく疫病で多くの人民が死ん
だ。飢饉もおきた。そうなると天皇がそんな偉い
神様ならなんでこうなるのという疑問が沸く。で
もそんなことでたじろいては官僚は勤まら
ない。早速国家の安全と人民の幸せについて
は仏様におまかせしましょうという事にして奈良
に盧舎那仏をまつり諸国にも国分寺を造って祈
らせた。神祇官制を廃止しなかったのは一回決
めた事は変えたくないという面子だけではなく、
それなりの理由があったろう。「人形項の解説
はどうなってるんだ！」の声あり。すみません、
日本の文化って複雑怪奇でつい前説が長く
なって、次回は必ず人形にたどり付きます)

文：宇野小四郎